

「黒木小学校の黒木鷹踊り伝承活動の取組」

1 学校名

薩摩川内市立黒木小学校

2 学年・人数

小学3年生から6年生（計12名）及び中学生（8名）計20名

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和5年8月1日（火）黒木コミュニティセンター

令和5年9月22日（金）黒木コミュニティセンター

令和5年12月19日（火）黒木コミュニティセンター

(2) 発表の日時・場所

令和5年8月13日（日）黒木夏祭り（黒木コミュニティセンター）

令和5年9月23日（土）大楠神社奉納（大楠神社）

令和5年12月23日（土）黒木暮市（黒木コミュニティセンター）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称

黒木鷹踊り（くろきたかおどり）

(2) 由来

昔は、上層の武士が行っていた鷹狩りを芸能化したものであり、もともとは、鷹狩りの餌食になった動物たちの霊を慰める踊りであったと言われている。

(3) 構成等

すててこ、笠、扇子、鷹を模した道具を持った鷹匠役（男）が器用に鷹を操る様子と笠と着物を身に付け、棒を持って鷹の機嫌を損ねないように餌師（女）が補助する様子を三味線や太鼓の楽曲に併せて踊る。

5 保存会や地域との連携の具体

黒木鷹踊りは32年の歴史を持ち、数年前までは、黒木小学校児童だけが踊っていたが、校区の伝統芸能の継承の意義を考え、平成14年に保存会を立ち上げて現在に至っている。現在小学生3～6年生12名が活動しているが、踊りの練習は、地元保存会の永野光輝氏を中心に中学生にも力を借りて、踊りの指導をしていただいている。中学から小学生へと黒木の伝統をつなぐ形をとっている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が連携協力しながら黒木鷹踊りを継承していくために、学校に「黒木鷹踊り保存会」事務局を置いている。副会長に黒木コミュニティセンター会長を置き、「黒木鷹踊り」を継承していくために地域と連携する態勢を整えている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【3年生児童】

今日、夜、コミセンでたかおどりの練習がありました。ぼくは、はじめてで最初はわからないことばかりだったけれど、せんぱいたちがやさしく教えてくれてもうおどれるようになりました。とてもうれしかったです。

【4年生児童】

今日、鷹踊りの練習がありました。去年から始めたのでおどれるか、心配だったけれど、体がおぼえていておどれました。次の練習もがんばって、本番でしっかり踊れるようにしたいです。

【小学6年生徒】

鷹踊りの練習が始まりました。ぼくは、今年で4年目です。後輩たちにも教えることができるようになっていきます。さらに、先輩たちの踊りを見ながら練習し、精度を高めています。ぼくは、黒木鷹踊りが大好きです。今後も、一生懸命踊って、この黒木鷹踊りを伝えていきたいと思っています。

【中学3年生徒】

鷹踊りを始めて6年が経ちました。小学生が、一生懸命練習するので教え甲斐があります。一緒に踊っていると、リズムが統一されるような感覚になり、一体感が生まれます。同じ動きの繰り返しですが、とても楽しく踊っています。これからも伝統の踊りを残して行ってほしいです。

【教職員】

今年は、コロナの影響をさほど考えずに取り組むことができました。夏祭り、大楠神社奉納、暮市の3回披露する機会をいただき、地域の方々にも喜んでもらえたと思っています。閉校に伴い、来年度から事務局は学校ではなくなりますが、しっかりと引き継ぎたいと思います。

【保存会・指導者】

年々、子供の人数が少なくなっている中、伝承活動も難しくなってきますが、今できることを精一杯やって、後の世代に引き継いでほしいと思っています。